第三号議案

会則の一部改定（案）

会則の一部改定新旧対照表（下線は変更部分を示す。）

現　行	改　正	摘　要
（名称） 第1条 本学会は日本緑化工学会と称し、以下、本会則では本会と称する。英文名称は The Japanese Society of Revegetation Technology（略称は JSRT）とする。	（名称） 第1条 本学会は日本緑化工学会（にほんりょっかこうがっかい）と称し、以下、本会則では本会と称する。英文名称は The Japanese Society of Revegetation Technology（略称は JSRT）とする。	名称の読みを定義するため
（会費） 第7条 本会の会費は次のとおりとする。 （1）正会員　年額 8,000 円 （2）賛助会員 年額 35,000 円以上 （3）学生会員 年額 4,000 円 （4）名誉会員 会費を納めることを要しない 2. 英文誌を冊子で購読する場合は以下の金額を追加する。 （1）英文誌冊子購読費 年額 4,000 円＋消費税	（会費） 第7条 本会の会費は次のとおりとする。 （1）正会員　年額 8,000 円 （2）賛助会員 年額 35,000 円以上 （3）学生会員 年額 4,000 円 （4）名誉会員 会費を納めることを要しない 2. 会費は学会の目的達成のために運営費用に充てるものであり、特定の対価を得るものではない。 3. 英文誌を冊子で購読する場合は以下の金額を追加する。 （1）英文誌冊子購読費 年額 4,000 円＋消費税	会費の非対価性を明記するため
（会議の議事録） 第33条 会議における議事の経過及びその結果は議事録に記載し、議長及び出席者の代表2名以上が署名押印の上これを保有する。	（会議の議事録） 第33条 会議における議事の経過及びその結果は議事録に記載し、公開する。	実態に即するため
（理事担当） 第 34 条（略） 2. 事業部門には総務、経理、企画・事業、編集、学術国際交流の各部会を置き、理事の中から担当理事を定め、うち1名を部会長とする。	（理事担当） 第 34 条（略） 2. 事業部門には総務、経理、広報、企画・事業、編集、学術国際交流の各部会を置き、理事の中から担当理事を定め、うち 1 名を部会長とする。	部会の創設のため

－ （なし）	（事業部門：広報部会） 第 37 条　広報部会の担当事項は次のとおりとする。 （1）広報・ホームページに関すること （2）協賛に関すること （3）その他必要な事項	部会の担当事項を定めるため 第 37 条の追加に伴い、以下の条番号を繰り下げる

第四号議案

日本緑化工学会　令和８年度事業計画（案）

（令和８年／2026 年８月１日 ～ 令和９年／2027 年７月 31 日）

１．第 57 回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日：2026 年９月１日（火）～3 日（木）

開 催 地：帯広畜産大学（帯広市）

発表題数：99 題（口頭発表　10 件、ポスター発表　89 件）

発表件数のうち、論文 11 件、技術報告 31 件、交流部門 57 件

公開シンポジウム「積雪寒冷地の法面・崩壊斜面と緑化保全の最前線」（9 月 1 日）

現地見学会「帯広畜産大学内の施設見学」（9 月 3 日）

研究集会　6 件（9 月 2 日）　　企業展示　5 件（9 月 1、2 日）

業界研究会　10 件（9 月 2 日）　情報交換会（9 月 1 日）

※第 58 回大会は、「ELR2027」として、2027 年 9 月に金沢市で開催予定。

第 59 回大会は、2028 年 9 月に開催予定。開催地未定。

２．研究会等

（1）斜面緑化研究部会

①通常号への特集原稿「外来草本ヨシススキの分布域拡大状況の確認と課題」（第 55 回大会 研究集会（4）のテーマ）を投稿中

②第 57 回大会において公開シンポジウムを企画（積雪寒冷地緑化研究部会との共催）

開催年月日：2026 年９月１日（火）　13:45～15:55

会　　場：帯広畜産大学　大講義室

テ ー マ：「積雪寒冷地の法面・崩壊斜面と緑化保全の最前線」

③その他、研究集会、勉強会、現地見学会を企画予定

（2）都市緑化研究部会

グリーンインフラ、ネイチャーポジティブ等に関わる勉強会等を検討中。

（3）生態・環境緑化研究部会

第 57 回大会において研究集会を企画

開催日時：2026 年９月２日（水）　13:30～14:45

テ ー マ：「現場のことは現場に聞け　『わちけん』の成功と失敗から次の一手を考える」

会　　場：帯広畜産大学　25 番講義室　（研究集会（2））

(4) 乾燥地緑化研究部会

公開シンポジウム 2026（案）

「モンゴルの森林ステップと気候変動 ー植生変化と再生への取り組みー」

日　　時：2026 年 12 月～2027 年 2 月末頃の土曜日　13:00～16:30（予定）

場　　所：東京農業大学世田谷キャンパス（予定）

方　　法：ハイブリッド（対面および zoom ミーティング併用）

参加申込：要　　参 加 費：無料

主　　催：日本緑化工学会乾燥地緑化研究部会

Ｃ Ｐ Ｄ：森林・自然環境技術者教育会（JAFEE）の CPD 認定プログラム（予定）

（森林分野・建設分野・土木分野 CPD）

プログラム（案）

・開会あいさつ：三木直子（乾燥地緑化研究部会　岡山大学）

・趣旨説明：小田あゆみ（乾燥地緑化研究部会　信州大学）

＜基調講演＞　吉川　賢（岡山大学名誉教授）

＜講　　演＞　講演 1　安江　恒（信州大学）

講演 2　小谷亜由美（名古屋大学）

講演 3　講演候補者調整中

質疑応答・まとめ　山中典和（乾燥地緑化研究部会 鳥取大学名誉教授）、小田あゆみ

(5) 積雪寒冷地緑化研究部会

第 57 回大会公開シンポジウムを開催予定（斜面緑化研究部会と共催、２（1）に詳細）

(6) 緑・健康研究部会

①緑・健康研究部会主催　見学会を開催予定（開催時期、テーマは未定）

②「緑と人の健康」に関するオンラインセミナーを企画予定

(7) 生物多様性研究部会

①「生態系機能評価ガイドライン」の策定に関する行動

部会目標「産官学がともに議論し Nature Positive を加速化する」に対する具体的取り組みとして、令和 10（2028）年 9 月末をめどに「生態系機能評価ガイドライン」を策定することを目指している。令和 8 年度は「生態系機能評価ガイドライン」素案の作成に取り組む。勉強会 3 回、研究集会 1 回の開催を予定。また、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム「グリーンインフラ技術集」2027 年度発刊分に、当該プロジェクトの一部を掲載する方針で調整を進める。

②第 57 回大会における研究集会開催

研究集会「学会発、生態系機能評価ガイドラインーNature Positive を推進するために」を開催。基調講演に中村圭吾氏（土木研究所）を招待。

開催日時：2026 年 9 月 2 日（水）　14:55～16:10

会　　場：帯広畜産大学　5 番講義室　（研究集会（4））

(8) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

年 2 回の公開勉強会を継続予定。(開催時期、テーマは未定)

(現在活動中の研究部会)

斜面緑化研究部会 ／ 都市緑化技術研究部会 ／ 生態・環境緑化研究部会
乾燥地緑化研究部会 ／ 積雪寒冷地緑化研究部会 ／ 緑・健康研究部会
生物多様性緑化研究部会 ／ 海岸林･沿岸域緑化研究部会

3．シンポジウム

(1) 第 57 回大会公開シンポジウム

開催年月日：2026 年 9 月 1 日（火） 13:45～15:55
会　　場：帯広畜産大学　大講義室
テ ー マ：「積雪寒冷地の法面・崩壊斜面と緑化保全の最前線」

(2) その他、企画シンポジウムの開催を予定。

4．現地見学会

(1) 第 57 回大会現地見学会　「帯広畜産大学内の施設見学」

開催年月日：2026 年 9 月 3 日（木）
見学場所：帯広畜産大学

(2) その他、現地見学会、検討会を開催予定

開催日時、テーマ：調整中

5．学会誌の発行：2 回発行予定

(1) 第 52 巻 1 号：令和 8 年 8 月 31 日発行（第 57 回大会特集号）
(2) 第 52 巻 2 号：令和 8 年 8 月 1 日～令和 9 年 7 月 31 日（通常号）

・第 52 巻（2026 年度）より「大会特集号」と「通常号」の 2 号編成とする。「通常号」は、採択が決定した原稿から J-Stage に即時公開する。

6．学会誌の電子化に伴う学会活動・運営

(1) 学会事務運営業務および、学会ホームページサイト更新管理の業務委託

学会事務運営業務（入退会受付、会計、会誌保管業務等）および、随時の情報更新が必要なホームページのサイト更新管理作業を外部へ業務委託する。

(2) コミュニティレターの発行：年 3 回発行予定

①第 6 号：令和 8 年 8 月　発行予定
②第 7 号：令和 8 年 12 月　発行予定
③第 8 号：令和 9 年 4 月　発行予定

７．英文誌 Landscape and Ecological Engineering（LEE）の発行
4 回発行予定：Vol. 22 (4)，Vol. 23 (1)～(3)

８．ICLEE2026 大会
開催年月日：2026 年 10 月 30 日（金）～11 月 1 日（日）
会　　場：台北（台湾）、National Taiwan University (NTU)

９．学会賞の授与
令和 8 年度日本緑化工学会賞の授与（令和 9 年度総会にて授与予定）

10．CPD
第 57 回大会の公開シンポジウム、研究集会、および現地見学会等を、森林・自然環境技術教育センター（JAFEE）ならびに土木学会 CPD の CPD プログラムとして登録し、CPD ポイントを付与する。
また、各種イベントについても、必要に応じて各 CPD プログラムへ登録し、CPD ポイントを付与する。

11．情報公開・広報・交流事業
（1）ホームページ及び会員ブログの運営
（2）会員向け連絡「ニュースメール」の配信、情報管理と公開
（3）メーリングリスト green-if の運営

12．その他
（1）日本学術会議に関する協力団体としての対応
（2）防災学術連携体における活動
①総会、WEB 研究会及び連絡会に参加予定。
②防災学術連携体の中で日本緑化工学会が参加できる内容を告知、随時対応。
（3）日本農学会における活動
（4）災害復興支援・災害対応指針検討委員会における活動

第五号議案

令和8(2026)年度　予算案

（ 2026年 8月 1日 ～ 2027年 7月31日 ）

日本緑化工学会

単位：円

	費　　目	予算額 (A)	前年度決算額 (B)	差額 (A-B)	対予算割合 (B÷A×100)	摘　　要
収入の部	正会員費	4,000,000	5,163,400	▲ 1,163,400	129.09	正会員数500名（@8,000）
	賛助会員費	1,925,000	2,170,000	▲ 245,000	112.73	賛助会員数55団体(@35,000)
	学生会員費	280,000	260,000	20,000	92.86	学生会員数70名(@4,000)
	入会登録料	30,000	50,300	▲ 20,300	167.67	30名(団体)分（@1,000）
	英文誌購読料	17,600	30,800	▲ 13,200	175.00	4件分（@4,400）
	投稿料	672,000	880,000	▲ 208,000	130.95	45件分
	賛助金収入	900,000	1,035,000	▲ 135,000	115.00	7団体分
	雑収入	70,000	848,727	▲ 778,727	1,212.47	著作権使用料、受取利息等
	小　　計	7,894,600	10,438,227	▲ 2,543,627	132.22	
	前期繰越金	18,778,810	18,778,810			
	合　　計	26,673,410	29,217,037	▲ 2,543,627	109.54	
支出の部	会議費	300,000	178,756	121,244	59.59	理事会・評議会会議室借り上げ代、茶菓代等
	旅費交通費	1,000,000	633,647	366,353	63.36	理事会交通費、対面（Web併用）開催3回
	事務費	100,000	67,628	32,372	67.63	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品等
	通信費	150,000	143,686	6,314	95.79	事務局電話代、郵送料等
	学会誌刊行費	2,200,000	2,114,244	85,756	96.10	ジャーナルサポート編集760千、J-Stage公開600千、Editorial Manager利用560千、コミュニティレター250千
	学会誌刊行費（英文）	172,000	172,000	0	100.00	ICLEE負担金、LEE購読料
	大会補助費	462,000	0	462,000	0.00	大会収入仮受金を本部から払い出し
	シンポジウム・見学会補助費	100,000	0	100,000	0.00	開催運営の赤字補填、他学会共催シンポジウム補助費
	研究部会補助費	1,040,000	82,824	957,176	7.96	研究部門100千円／部会×8部会、事業部門40千円／部会×6部会（新設部会含む）
	委員会等経費	200,000	0	200,000	0.00	会議室使用料・旅費・編集委員会（通常号・大会号論文）
	事務委託費	3,500,000	2,380,511	1,119,489	68.01	学会事務運営1800千、会員管理システム660千、サーバー使用料160千、ロボットペイメント130千、クラウドデータ保管100千、学会WEBサイト編集110千、日本システム収納会費40千
	CPD等経費	44,000	5,500	38,500	12.50	土木学会CPDプログラム認定等
	諸会費	130,000	124,050	5,950	95.42	JAFEE、防災学術連携体、日本農学会
	災害対策費	100,000	0	100,000	0.00	災害調査費用　他
	雑費	25,000	14,310	10,690	57.24	振込手数料、租税公課、交際費他
	予備費	30,000	0	30,000	0.00	慶弔費等
	小　　計	9,553,000	5,917,156	3,635,844	61.94	
	次期繰越金	17,120,410	23,299,881	▲ 6,179,471	136.09	
	合　　計	26,673,410	29,217,037	1,092,217	109.54	

※前期繰越金は前年度末の現金預金残高を記載

※予算科目は経理事務要領（2026.6制定）に基づき再構成

2026年9月1日

日本緑化工学会経理部会長　今井 祥[illegible]



令和8(2026)年度　基金予算案

(2026年 8月 1日 ～ 2027年 7月31日)

日本緑化工学会

単位：円

費　　目		予算額 (A)	前年度 決算額　(B)	差額 (A−B)	対予算割合 (B÷A×100)	摘　　要
収入の部	前期より繰り越し	1,202,947	1,130,131	72,816	93.95	
	利子収入	4,810	2,816	1,994	58.54	みずほ銀行普通預金金利(0.4%／年)
	一般会計より積み立て	0	70,000	▲ 70,000	-	賛助会員費のスポット入金を見込まないことによる減
	一般会計から回収	0	0	0	-	
	合　　計	1,207,757	1,202,947	4,810	99.60	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	70,000	0	70,000	0.00	賛助会員費のスポット入金を一般会計に移行
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合　　計	70,000	0	70,000	0.00	

次期繰越金	1,137,757	1,202,947